

会員だより

「災害復旧事業に携わって ～山梨県の災害復旧の特徴～」



山梨県県土整備部 治水課 主任
塩谷 正裕

1. はじめに

当課は、河川計画、河川の改修及びその施設維持、ダムの管理・修繕・改良、河川の管理、情報基盤の整備・改修、水防・水災害業務、公共土木施設災害復旧事業と業務は多岐にわたります。

私は、平成25年度に災害復旧事業、水防、情報基盤の整備等を所管する現在の災害担当になり、平成26年度で2年目となります。災害担当は、私を含め3人で構成されており、様々な方々のご指導を賜りながら日々業務を行っています。

2. 山梨県の河川

2-1. 地 形

地形上の特色は、周囲が2,000mから3,000m前後の高峻な山岳をもって囲まれていることです。

南に秀峰富士山がそびえ、北に八ヶ岳、金峰山等が連なり、西に南アルプスの北岳を主峰とする白根山脈が走り、県中央部も小説で有名な大菩薩嶺、御坂山脈が走って、県の地勢を東西に両分しており、県民は、東側を郡内地方、西側を国中地方と称しています。



2-2. 河 川

本県の河川を大別すると3つの水系となり、富士川水系、相模川水系、多摩川水系です。

富士川水系は、国中地方、甲府市周辺の平地部を甲府盆地と称して、本県最大の平地を走る河川であります。山岳地域から発する諸川は、いずれも急流をなし、合流して釜無川、笛吹川となり、盆地の南端において合流して本邦最大急流の一つである富士川となり、静岡県に入ります。

相模川水系は、郡内地方を流れる河川です。同地方は、富士山麓を除けば、山岳縦横に起伏して、桂川沿岸にわずかな平地があるのみで地勢は複雑です。本県内では桂川と呼ばれ、笹子川と合流して神奈川県に入り相模川となり、横浜市の水道水源となります。

さらに多摩川水系は、北方の大菩薩嶺を水源とする多摩川、小菅川の二河川が主流です。多摩川は、東流して東京都に入り、小菅川と合流します。

2-3. 気 象

国中地域の気候は、地形が本州中央部の内陸山間盆地であるため、典型的な内陸型です。気候の変動はかなり著しく、少ない雨で寒暑の差が激しいのが特徴です。そのため、果樹の生産、特に葡萄、桃、さくらんぼ等に適しており、多くの果樹を生産しております。風は、冬から春の季節風が強く、また湿度が激しく低下するので、甲州のからっ風（通称：八ヶ岳おろし）は有名です。気温は、甲府盆地の大部分と、峡南地方の富士川沿岸部が高く、近年の夏期は40度を超える日も多数あり、報道でも取り上げられます。

会員だより

その一方、郡内地域特に富士北麓地域は、全域で夏に雨が、冬は晴れの日が多く、気温は、東京に比べ4～5度程度低く、夜は特に冷え込むのが特徴です。

降雨量は、峡南地方、郡内地方特に富士北麓地域で多く、24時間雨量で200～300mmを超えることもあります。

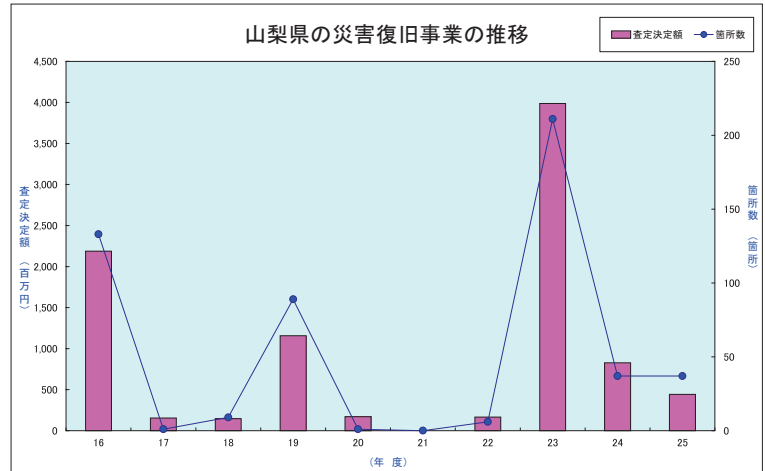
ばらであり、その種類也多岐にわたります。

また、本県における公共土木施設の整備率も順次向上しておりますが、直近10年間で80件以上の災害は3回あり、約3～4年に一度の周期で、大きな災害が発生している傾向があります。

3. 災害の状況

3-1. 災害の推移

災害の時期については、本県は、一昔前であれば7月の梅雨前線、9月期の台風による豪雨を中心とする異常な天然現象による公共土木施設への被害が多くありました。しかし、近年10年間の状況を見ると5月期の豪雨、6月期の台風、低温災害（凍上災）、地震による地すべりなど被災の時期は、ま



年度	箇所	金額 (千円)	主たる被災原因
16	133	2,187,881	10月8～9日 台風22号、10月19～21日 台風23号
17	1	154,716	7月23日 千葉県北西部地震、地すべり
18	9	145,847	凍上災（1、2月低温）
19	89	1,157,121	7月14～15日 台風4号、9月5～7日 台風9号
20	1	170,186	7月7日～9月16日 地すべり
21	0	0	災害発生無し
22	6	166,301	5月23～24日の豪雨、9月8日 台風9号、10月30～31日 台風14号
23	211	3,987,831	5月10～11日の豪雨、7月17～21日 台風6号、8月31日～9月6日 台風12号、9月19～22日 台風15号
24	37	827,940	2月 低温、5月2～3日の豪雨、6月19～20日 台風4号、7月11～12日の豪雨、9月30日～10月1日 台風17号
25	37	442,403	9月15～16日 台風18号、10月15～16日 台風26号
合計	524	9,240,226	
平均	52	924,023	

会員だより

3-2. 台風の状況

山梨県に大きな被害をもたらす台風の進路は昭和期、平成期で異なる傾向があります。

台風経路が異なる理由は明確にはわかりません

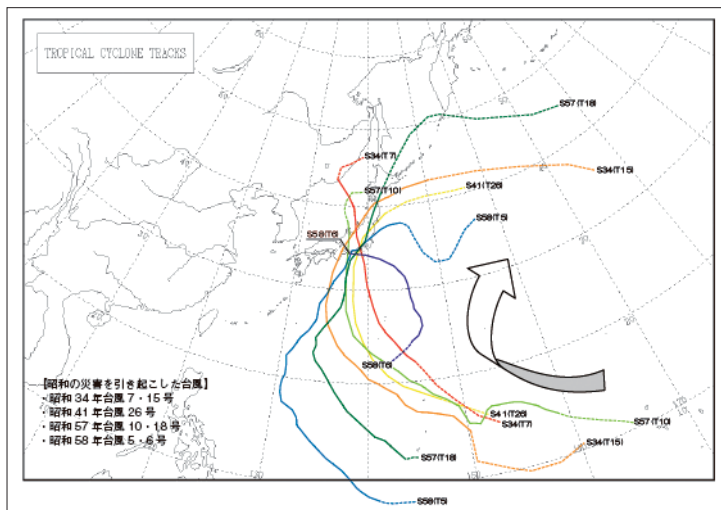
が、温暖化による偏西風等の影響があるのかもしれませんが、被害が大きな台風は、本県を直撃するもの、本県上部または下部をかすめるものが大きな被害を及ぼす傾向があります。

《昭和期の台風傾向》

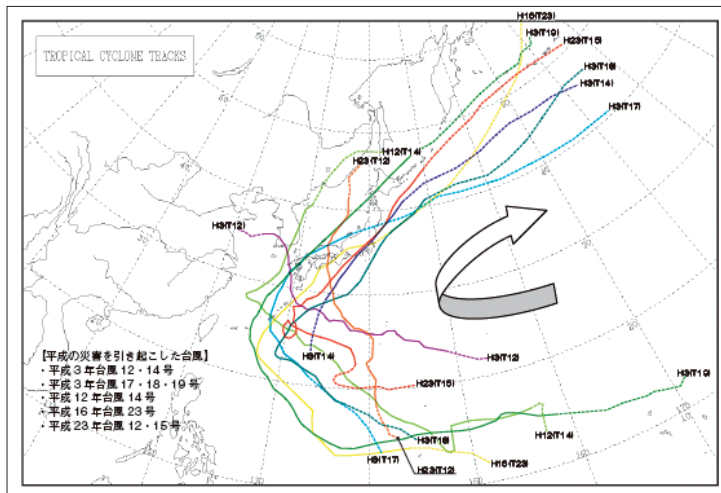
発 生 地	経 路	上 陸
マリアナ諸島近海	日本列島静岡・和歌山南側沿岸から、日本列島を縦断する	山梨県に上陸することが多い

《平成期の台風傾向》

発 生 地	経 路	上 陸
マリアナ諸島近海	沖縄諸島、四国沿岸から東北方向へ日本列島を沿うように北上する	必ずしも山梨県に上陸しない



《平成期の主な台風経路図》



《昭和期の主な台風経路図》

会員だより

3-3-1. 近年の災害 (23年災)

近年の大きな災害については、台風12号及び15号による平成23年災が大きなものでした。前述の気象であるとおり、国中の峡南地域、郡内地域に豪雨による災害が集中しました。第三次査定は、52件中、富士・東部建設事務所及び吉田支所で38件(73%)、第四次査定は、150件中、峡南建設事務所

で72件(48%)、富士・東部建設事務所及び吉田支所で48件(32%)となり、9月中に立て続けに発生した大きな台風では、当該事務所職員を中心に泊まり込みで災害復旧作業を行っておりました。

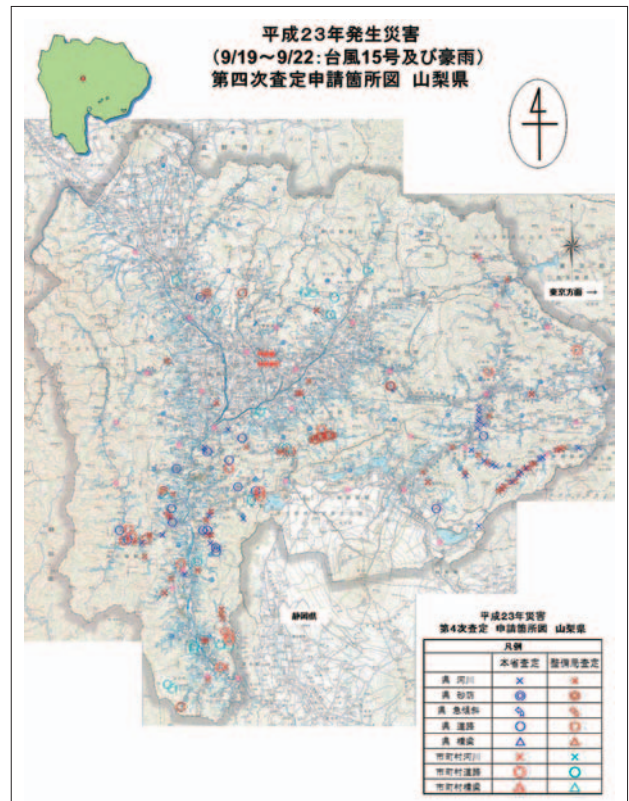
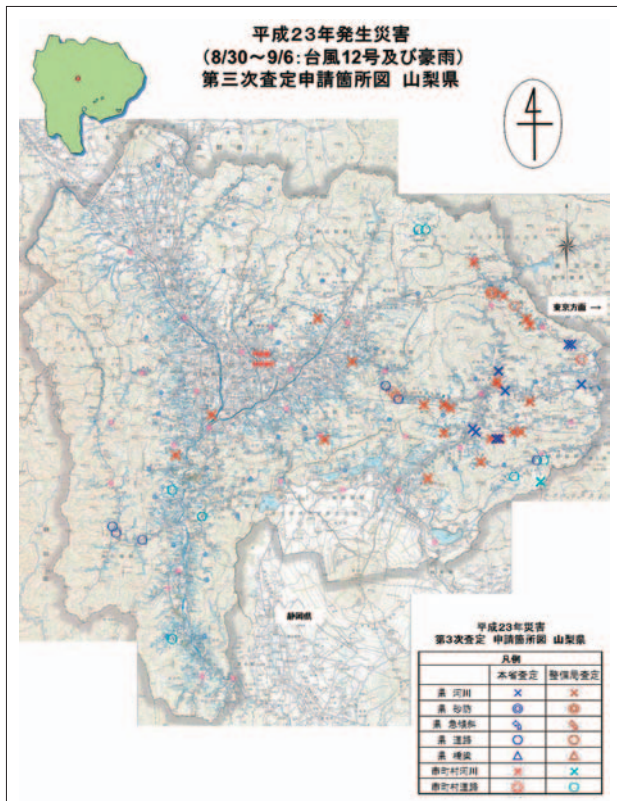
台風のルートとしては、昭和41年台風26号、平成3年台風14号・18号、平成16年台風23号に類似していました。

《23年災 第三次査定・第四次査定 申請状況》

○申請状況一覧表

査定	申請者別	国中地域				郡内地域		総計
		中北建設事務所	峡北支所	峡東建設事務所	峡南建設事務所	富士・東部建設事務所	吉田支所	
第三次査定		1		6	7	36	2	52
	県	1		4	4	32	2	43
	市町村			2	3	4		9
第四次査定		11	2	17	72	22	26	150
	県	7	2	11	50	20	26	116
	市町村	4		6	22	2		34
合計		12	2	23	79	58	28	202

○申請箇所図



会員だより



平成23年災 峡南建設事務所管内 芦川



平成23年災 峡南建設事務所管内 鳴沢川

3-3-2. 近年の災害（平成26年2月大雪）

《概要》

平成26年2月13日21時に南西諸島で発生した低気圧は、本州の南海上を北東に進み次第に発達しながら、15日明け方から昼頃にかけて関東地方沿岸に接近、関東の東を北東に進みました。同時に関東地方の上空が寒気に覆われていました。

この影響で、本県では、14日未明から15日昼前にかけて雪が降り、前週（2月8日～9日）に引き続き大雪となりました。この大雪により最深積雪は、甲府で114センチ、河口湖で143センチに達し、いずれも統計開始以来の極地を更新する記録的な大雪となりました。

《大雪による影響》

次頁図がピーク時の大雪による通行止路線図です。36路線43箇所の県管理の路線において通行止めとなりました。

それを受け、国交省のTEC-FORCEをはじめ他県からの支援により3月上旬には、規制解除となりました。

この場を借りて、ご協力を頂いた関係機関の方々にお礼申し上げます。

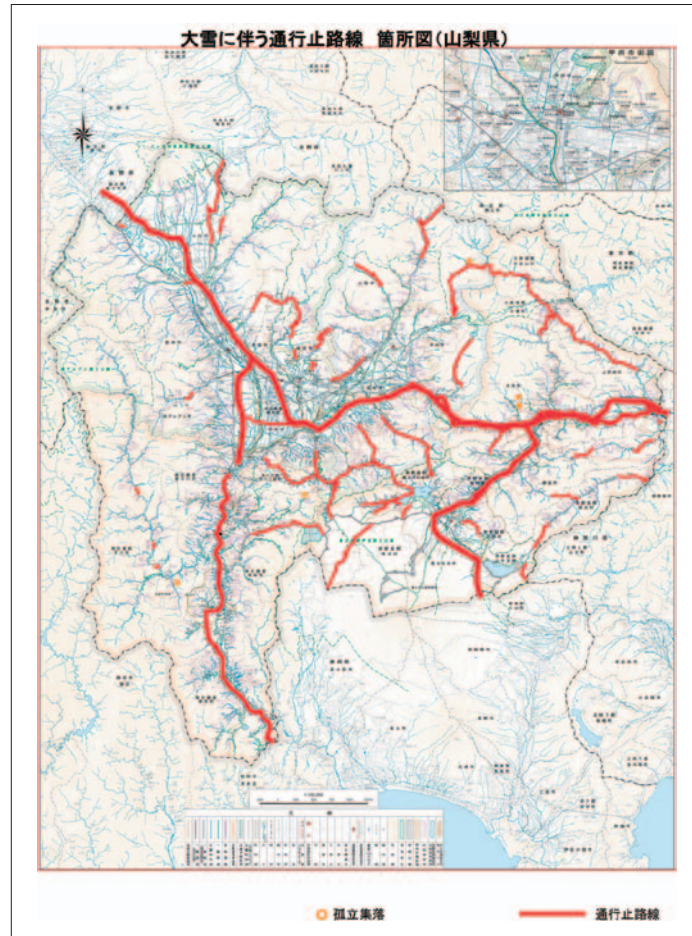
支援活動状況一覧

機 関 名	のべ路線数	区間延長(km)
国交省(TEC-FORCE)	33	309.0
新潟県	14	84.2
長野県	16	131.3
静岡県	12	7.8



支援活動による除雪状況

会員だより



4. まとめ

災害は、忘れた頃にやってくるとよく言いますが、本県でもその言葉のとおり3～4年の周期で大きな災害が発生している状況です。災害発生時に迅速かつ適切に職員が災害復旧業務を行えるよう技能の蓄積・伝承は必須です。本県においても

アシストエンジニア講習会などを通じて、県職員、市町村職員の災害復旧業務の技能研鑽に努めています。

公共土木施設の迅速な復旧により県民の財産、安全、生活を守るこの事業に今後とも邁進していきます。